国語科（国語総合）学習指導案

日　時　平成二十三年十一月八日(火)六時間目
学　級　普通科　一年四組
（男子十八名　女子二十二名　計四十名）
場　所　一年四組教室
授業者　教諭　藤田美穂

1　単元名

「羞恥と愚行」

2　教材名

「赤い頬をした動物」（木原武一）

3　単元設定の理由

本単元の随想は比較的平易な表現で書かれた読みやすい随想であり、学習者は筆者の誘いに乗って、筆者の提示した問いかけに積極的に参加することで、自ら考える力を養うことが可能となる。またそれと同時に、学習者自らも表現活動に参加することで、日頃の言語活動を振り返り、見つめ直す一助とすることが出来る。

4　生徒の実態

元気がよい反面、集中力に欠けた生徒も多い。やろうという意識はあっても、長時間集中したり書いたりなどの地道な作業を苦手とする生徒が多々見られる。感覚的にとらえることは出来ても言葉で表現することを苦手に感じる、そのような生徒たちに比較的身近な問題から考察を深めさせ、自分の言葉で表現させることが出来れば幸いである。

5　単元の目標

① 筆者の問いかけを自分への課題とすることで、ともに考える姿勢を養う。　**[関心・意欲・態度]**

② 一見些細に思われる表現の違いに反映された、筆者の意図や意識について考える。**[読む能力①]**

③ 他の学習者の意見や発表を聞き、それについて思索し意見をまとめる。　**[読む能力②]**

④ 学習者自身も「人間についての定義」を考え、自らの問題意識や表現の特徴を言葉として具体的に表現し、またそれを発表する。　**[読む能力③]**

⑤ 本文中にちりばめられている疑問形の文末表現を理解する。　**[知識・理解]**

6　単元の評価規準

① 筆者の問いかけを自分への課題とし、主体的に考えている。　**[関心・意欲・態度]**

② 一見些細な表現の違いに表れた、筆者の意図や意識を理解している。　**[読む能力①]**

③ 他の学習者の意見や発表を注意深く聞き、その主旨を理解している。　**[読む能力②]**

④ 自らの問題意識や表現の特徴を把握して「人間についての定義」をまとめている。　**[読む能力③]**

⑤ 本文中にちりばめられている疑問形の文末表現を理解している。　**[知識・理解]**

(1)単元の指導計画

単元の学習課題

①人間にとっての「愚行」、及び「羞恥」の関係について明らかにする。
②「人間のあるべき姿」について思索を深める。

(2)単元の展開

時間	学習活動	指導上の留意点
1	・本教材の特徴について知る。 ・形式段落・意味段落分け。 ・第一段落・第一節について 疑問① 「恥ずかしいとなぜ赤くなるのか」について考える。 「顔は心を映し出す掲示板」について考える。	(ニーチェの言葉から触発される形の随筆であること。本文中の疑問について自ら考えることが大切であること等を説明。) ・形式段落は教科書に番号を振らせる。(1～16) ・教科書にはない自分なりの答を根拠を示した上で答えさせる。 ・具体例を挙げさせる。
2	・第一段落・第二節について 疑問② 「人間の頬はなぜ毛で覆われていないのか」について考える。 人間についての定義① 「人間は恥の感情を持つ唯一の動物である」を押さえる。	・教科書にはない自分なりの答を根拠を示した上で答えさせる。 ・「人間とは～である」の形に改めさせる。
3	・第二段落について 各種「人間の定義」の妥当性について考える。 プラトンとディオゲネスの定義について考える。 ← 人間についての定義② 「人間は愚行を為す唯一の動物である」を押さえる。 人間についての定義①②の関連について考える。	・そのように定義できる根拠について考えさせる。 ・より人間の本質に迫る定義はどちらか、またそれはなぜか、根拠を示して答えさせる。 ・「人間とは～である」の形に改めさせる。 ・人間の愚行(歴史に残る愚行)にはどのようなものがあるか、考えさせる。 ・愚行と羞恥の関係、また赤面することの意味について考えさせる。
4	・第三段落について ニーチェの「冒頭の言葉の続き」について考える。 筆者の体験について考える。 「ニーチェも赤面恐怖症の体験者なのかも知れない」について考える。 筆者の体験の本文中における位置づけを考える。	・前時の振り返りから「羞恥の歴史」に注目させる。 ・「愚行→恥(赤面)→反省→忘却→愚行」のプロセスについて考えさせる。 ・「赤面恐怖症」はなぜ起こるのか本文を踏まえ考えさせる。また、自身の赤面体験についても考えさせる。 ・筆者がそのように述べる根拠を本文中より指摘させる。 ・個人レベルの「愚行」と人類レベルの「愚行」について押さえさせる。
5 (本時)	・第四段落について (8本時の実際(2)を参照)	
6	・学習者自身による「人間の定義」の発表。 ・単元の評価	・「人間とは～である。なぜなら～だからである。」の形で示させる。

8　本時の実際（5／6時間）

（1）本時の学習目標

① ニーチェの言葉とマークトゥエインの言葉の相違点に注目し、そこからくみ取れる筆者の思いについて考える。

② 「人間のあり方」についての筆者の意識を読み取り、自分自身のあり方と結びつけて表現する。

③ 考察に基づいた意見交換を行う。また他学習者の発表を聞くことでさらに考察を深める。

（2）本時の展開

過程	学習活動	指導上の留意点
導入（10分）	・前時までのまとめを行う。（二つの定義の再確認と筆者の赤面体験について。） ・指名読み。（第四段落・形式段落14～16）	・本時の核が考察三にあることを確認する。 ・自分が読むつもりでしっかり聞くよう指導する。
展開（35分）	・前時に配付したワークシートを元に、ニーチェ『遺された断想』の言葉と、マークトゥエインの言葉を比較してみる。〈考察一〉 ・筆者が「このほうがよくわかる。」という理由について考える。〈考察二〉 ・〈考察三〉について、グループごとに話し合いを行う。 考察三　筆者が考える「あるべき人間の姿」とはどのようなものか。 『人間とは～であるべきだ。なぜなら～だからだ。以上の点から、私自身は～と考える。』 ・各グループの代表者の発表を聞く。	・些細な違いのどこが問題となるのか把握させる。 ・指名して答えさせる。 ・机間指導をし、必要に応じて助言する。（教科書本文の流れをふまえて話し合いができているか確認する。） ・自分の考察と合致する点、また相違する点に注意させる。
終末（5分）	・次時の予告。	・学習者自らが「人間についての定義」を考えてくるよう指示。

（3）本時の評価

① 小さな表現の違いからくみ取れる筆者の思いに気づくことができたか。

② 筆者が考える人間のあり方について根拠に基づいて十分な考察ができたか。

「赤い頬をした動物」ワークシート　　一年（　）組（　　）番　氏名（　　）

★第四段落（形式段落14～16）

この段落では、ニーチェの言葉とマークトゥエインの言葉が比較する形で挙げられている。

A人間は赤い頬をした動物である。つまり、人間は**時折、自分を恥じねばならぬ**動物である。（ニーチェ）

B人間とは、頬を赤らめる唯一の動物である。いや、**そうしなければならない**唯一の動物である（トゥエイン）

筆者は、この二つの言葉について、「同じようなこと」と言っているが、後者のトゥエインの言葉を指して

このほうがよくわかる。私の一番好きな人間の定義である。（人間についての定義③）

と述べている。

以上の点を踏まえた上で、次の問題について考察してみよう。

〈考察一〉 **AとBの波線部分の違いについて。**次の空欄に適する語を考え、記入しなさい。

A→　人間は時折①［　　］を行い、時折自分を②［　　］ということ。

B→①［　　］を為すことは人間にとって避けられない③［　　］のようなものであり、だからこそ④［　　］を赤らめそのことを恥じねばならない。つまり、恥じ入ることが⑤［　　］であるということ。

〈考察二〉 **筆者がBをさして、「このほうがよくわかる。」と言うのはなぜか。**これまでの流れを踏まえて、あなたの考えを書きなさい。

〈考察三〉 **筆者が考える「あるべき人間の姿」とはどのようなものだろうか。**本文中に明示されてはいないが、私たちはその思いをくみ取ることができる。またそれを受けて**あなた自身はいかにあるべきだと思うか。**今までの流れ、及び文中の記述を踏まえて、次の話形に当てはめ考えてみよう。

人間とは［　　］であるべきだ。

なぜなら［　　］からだ。

以上の点から、私自身は［　　］と考える。

「赤い頬をした動物」ワークシート　　一年（　）組（　　）番　氏名（　　）

★第四段落（形式段落14～16）

この段落では、ニーチェの言葉とマークトゥエインの言葉が比較する形で挙げられている。

A人間は赤い頬をした動物である。つまり、人間は**時折、自分を恥じねばならぬ**動物である。（ニーチェ）

B人間とは、頬を赤らめる唯一の動物である。いや、**そうしなければならない**唯一の動物である（トゥエイン）

筆者は、この二つの言葉について、「同じようなこと」と言っているが、後者のトゥエインの言葉を指して

このほうがよくわかる。私の一番好きな人間の定義である。（人間についての定義③）

と述べている。

以上の点を踏まえた上で、次の問題について考察してみよう。

〈考察一〉 **AとBの波線部分の違いについて。**次の空欄に適する語を考え、記入しなさい。

A→ 人間は時折 ①［愚行］ をなし、時折自分を ②［恥じる］ ということ。

B→ ①［愚行］ を為すことは人間にとって避けられない ③［宿命］ のようなものであり、だからこそ ④［頬］ を赤らめそのことを恥じねばならない。つまり、恥じ入ることが ⑤［必然］ であるということ。

〈考察二〉 **筆者がBをさして、「このほうがよくわかる。」と言うのはなぜか。**これまでの流れを踏まえて、あなたの考えを書きなさい。

人間の歴史とは羞恥（愚行）の歴史であり、筆者自らの赤面体験を考えても、人間が愚行を為しそれを恥じることは避けがたいことであるから。

〈考察三〉 **筆者が考える「あるべき人間の姿」とはどのようなものだろうか。**本文中に明示されてはいないが、私たちはその思いをくみ取ることができる。またそれを受けて**あなた自身はいかにあるべきだと思うか。**今までの流れ、及び文中の記述を踏まえて、次の話形に当てはめ考えてみよう。

人間とは［自分の行動を振り返り検証することができる存在］であるべきだ。

なぜなら［振り返ることで恥の感情が生まれ、次回への反省につながる］からだ。

以上の点から、私自身は

［自分の言動に責任を持てる、松陽生として恥ずかしくない人間でありたい］

と考える。

〈考察三〉 **筆者が考える「あるべき人間の姿」とはどのようなものだろうか。**本文中に明示されてはいないが、私たちはその思いをくみ取ることができる。またそれを受けて**あなた自身はいかにあるべきだと思うか。**今までの流れ、及び文中の記述を踏まえて、次の話形に当てはめ考えてみよう。

人間とは　他人の心情を思いやる洞察力と優しさを持った存在　であるべきだ。

なぜなら　赤面するようなつらい思いを他人にさせてはならない　からだ。

以上の点から、私自身は

身近にいる人の気持ちを尊重し、その思いを共有できる人間でありたい

と考える。